中　学　校

平成 29 年度

教育研究員研究報告書

特別活動

東京都教育委員会

目　次

Ⅰ　研究主題設定の理由・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1

Ⅱ　研究の視点・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　2
　1　一人一人が主体的、意欲的に実践できるようにする工夫
　2　生徒の自己有用感と次の課題解決への意欲を高める評価の工夫
　3　生徒の実態と身に付けさせたい力・目指す生徒像について

Ⅲ　研究仮説・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　3
　1　研究仮説
　2　研究構想図

Ⅳ　研究方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　5
　1　文献・資料による研究
　2　実践研究

Ⅴ　研究内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　7
　1　実践的研究(1)　教材開発
　2　実践的研究(2)　検証授業

Ⅵ　成果の検証・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　20

Ⅶ　研究の成果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　23

Ⅷ　研究の課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　24

研究主題

一人一人の自己有用感を高め、自主的・実践的な態度を育てる学級活動の工夫

～主体的に役割を決め、実践し、互いのよさを認め合う学習過程を通して～

Ⅰ　研究主題設定の理由

新中学校学習指導要領特別活動（平成 29 年３月）には、特別活動の目標として、「様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決する」ことを通して、生徒の資質・能力を育成することが示されている。その資質・能力は、中学校学習指導要領特別活動解説（平成 29 年７月）において「人間関係形成」、「社会参画」、「自己実現」の三つの視点で整理されており、それらを育むために自主的、実践的な活動を重視することや、生徒がどのような学びの過程を経るのか明確にすることが求められている。

これに基づき、特に重視して育成すべき資質・能力と、育成の手だてを考えるために、研究員の所属校の生徒を対象に実態調査を行った。その結果、生徒には人の役に立ちたいという思いはあるものの、実際に役に立っているという実感が薄く、自己有用感が低い傾向にあることが明らかになった。

これらの生徒は、係や当番活動において、日常的に学級のために活動しているが、他者からの評価や目標に向けて創意工夫をする機会がないと、「人の役に立った、人から感謝された、人から認められた」という実感に結び付きにくいことが分かった。また、自己有用感は、集団に貢献しようとする意欲の基盤となるものであり、自主的・実践的な態度に密接に関わってくるものである。そこで、自己有用感を高め、自主的・実践的な態度を育てるためには、生徒一人一人が主体的に自分のよさを生かした役割を決め、創意工夫して実践し、互いの実践を認め合う学習過程を設定することが有効であろうと考えた。さらに、生徒の資質・能力を高めるには、このような学習過程を繰り返し設けることが重要であると考え、様々な集団活動の中で、特に生徒が主体的に活動する機会が多い学級活動で研究を行うこととした。

平成 29 年度東京都教育研究員の共通テーマは、「主体的・対話的で深い学び」の実現である。新中学校学習指導要領解説特別活動編（平成 29 年７月）では、特別活動における「主体的・対話的で深い学び」の実現は、生徒が自主的・実践的に活動する「学習過程において授業や指導の工夫改善をすることで、一連の活動過程の中での質の高い学びを実現することである」と述べられている。

このことから、特別活動が重視する「実践」を、「問題の発見・確認」、「解決方法の話合い」、「解決方法の決定」、「決めたことの実践」、「振り返り」といった、一連の活動と捉え、学習過程全体を視野に入れて研究を進めていくことにした。そして、教師がこの学習過程を様々な活動において計画的に設定することで、生徒の資質・能力を継続的に育成できると考えた。以上のことから、研究主題を「一人一人の自己有用感を高め、自主的・実践的な態度を育てる学級活動の工夫～主体的に役割を決め、実践し、互いのよさを認め合う学習過程を通して～」とした。

Ⅱ　研究の視点

学級活動において、生徒一人一人が主体的に自分のよさを生かした役割を決め、創意工夫して実践し、互いのよさを認め合う学習過程を設定するために、学級活動の内容(1)イ「学級内の組織づくりや役割の自覚」(引用 新中学校学習指導要領特別活動 p 147) が適切であると考え、その学習過程における授業、指導の工夫、改善を研究した。中心となる題材は、合唱コンクールに向けた係活動とし、「問題の発見・確認」、「解決方法の話合い」、「解決方法の決定」、「決めたことの実践」、「振り返り」の各活動を、次の二つの視点で研究した。

1　一人一人が主体的、意欲的に実践できるようにする工夫

(1) 課題解決への意欲を高める工夫（「問題の発見・確認」）

生徒の自主的、実践的な態度を育てるには、学級の課題を自分の事として主体的に捉え、解決に向けて自分の意思をもつことができるような活動を設定する必要がある。本研究では、合唱コンクールに向けた学級目標の達成を課題として設定し、学級目標を決めるにあたり、一人一人の思いや願いを大切にしながら話し合い、合意形成を図ることで、目標の達成に向けて、生徒が主体的、意欲的に取り組めるようにした。

(2) 自分のよさを生かした役割を決めるための工夫（「解決方法の話合い」「解決方法の決定」）

学級の目標達成に向けた取組の工夫が、本研究の主軸となる係活動である。合唱コンクールにおいては、実行委員、指揮者、伴奏者、パートリーダーなどが主な役割として挙げられる。本研究における係活動は、主な役割をもたない生徒も、学級目標を達成するために何ができるかを考えさせ、自ら役割を決めて創意工夫しながら実践できるようにするため、各係活動では、自分のよさを生かして主体的、意欲的に取り組めるようにする必要がある。また、学級目標の実現に効果的で達成感のあるものとする必要がある。そのため、一人一人が実践を通して、話合いの中で多様な意見を取り入れ、他の生徒と協力しながら、実践を通して主体的に学びを深めていくことができるようにするために、係編成で以下の工夫を取り入れた。

ア　学級の目標達成に向けた課題と解決策について、アンケート調査を実施する。 イ　アンケート調査の結果を基に、一人一人が希望する係の活動内容を分類し、学級全体を三つのチームに分ける。 ウ　チームごとに話し合い、各係の担当者や活動内容を調整し、決定する。

(3) 生徒が自分の役割に責任をもち、継続して実践するための工夫（「決めたことの実践」）

自分の役割に責任をもち、最後まで意欲的に取り組むためには、役割を日常的に意識することや、活動状況を振り返ることが大切である。具体的な取組として、各係の活動内容を教室に掲示したり、振り返りカードを用いて自らの実践を定期的に自己評価したりすることである。また、学級全体の様子も定期的に評価し、各係の実践に反映させることも取り入れた。

2　生徒の自己有用感と次の課題解決への意欲を高める評価の工夫（「振り返り」）

生徒の自己有用感を高めるためには、一人一人が「人の役に立った、人から感謝された」と実感できる相互評価を行うことが大切である。そのため、話合いで決めた各係の活動内容を学級全体で共有できるように振り返りの場面を設定し、相互評価を行う実践の中間の振り

返りでは、自他のよさを認め合い、互いに高め合うことができるように、それぞれの係に向けて、よかった点と具体的なアドバイスを記述するアンケート調査を行い、その結果を共有した。これにより、生徒は肯定的な評価を得て自信をもつとともに、実践の改善に向けて具体的な手だてを考えることができ、学級の目標達成に向けて、より意欲的に取り組めるようになると考えた。実践の終了後には、生徒同士で付箋に感謝のメッセージを書いて交換することで、係活動の成果を感じられるようにした。また、自分たちの活動が学級や自己の成長につながったかなど、評価の観点を明確にして振り返り、その後の学級の生活づくりにどのように参画していくか考える機会を設けることで、次の活動への意欲を促した。

3　生徒の実態と身に付けさせたい力・目指す生徒像について

特別活動における生徒の実態を把握するために、研究員の所属校の生徒を対象に、「自己実現」、「人間関係形成」、「社会参画」の三つの視点に関連付けた学級活動に関するアンケートを作成し、検証授業前に実施した。その結果を分析し、本研究において生徒に身に付けさせたい力・目指す生徒像を以下のように定めた。

「社会参画」に関する項目では、「集団で活動するときに、人任せにしてしまうことがある」という質問に肯定的な回答をした生徒が 57%となった。また、「私は学級の課題解決（目標達成）に向けて行動したいと思う」という質問に肯定的な回答をした生徒が 95%であるのに対し、「私は学級の課題解決（目標達成）のために行動している」が 74%、「私は学級の課題解決（目標達成）のために友達と協力して取り組んでいる」が 76%であった。この結果、集団の課題解決に向けて協働して主体的に解決しようとする生徒の育成が必要と考えた。

「自己実現」に関する項目では、「私は人のために力を尽くしたい」という質問に肯定的な回答をした生徒が 87%であるのに対し、「私は学級の役に立っていると思う」が 51%、「私には人の役に立てる力があると思う」が 67%に留まった。生徒には、他者の役に立ちたいという気持ちはあるが、実際に役立った経験が少なく、自信が不足していると考えられる。そこで、自らのよさを生かして集団の課題解決に貢献する生徒の育成を目指すことにした。

「人間関係形成」に関する項目では、「私は友達のよいところを見つけようとしている」という質問に、最も肯定的な回答をした生徒が 57%であるのに対し、「友達は私のよいところを認めてくれている」が 41%となった。他者のよさを認めようとする気持ちはあるが、実際に認め合うことは、十分には行われていないことが伺える。そこで、集団の課題解決に向けて実践する中で、仲間のよさを認めようとする気持ちを実際の行動に結び付け、よりよい人間関係を築こうとする生徒の育成を図ることにした。

Ⅲ　研究仮説

1　研究仮説

生徒自らが集団の課題解決に向けて自分のよさを生かした役割を設定し、実践し、振り返りを行い、その実践を互いに認め合えれば、自己有用感が高まり、自主的・実践的な態度が身に付くであろう。

２　研究構想図

特別活動の目標（新学習指導要領）

集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、次のとおり資質・能力を育成することを目指す。
(1) 多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身に付けるようにする。
(2) 集団や自己の生活、人間関係の課題を見いだし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることができるようにする。
(3) 自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、集団や社会における生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、人間としての生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。

学級活動の目標（新学習指導要領）

学級や学校での生活をよりよくするための課題を見いだし、解決するために話し合い、合意形成し、役割を分担して協力して実践したり、学級での話合いを生かして自己の課題の解決及び将来の生き方を描くために意思決定して実践したりすることに、自主的、実践的に取り組むことを通して、第一の目標に掲げる資質・能力を育成することを目指す。

生徒の実態（教育研究員の所属校）

○「社会参画」に関する生徒の実態
・集団の課題解決に向けて、仲間と協力して積極的に行動することが苦手である。
○「自己実現」に関する生徒の実態
・自分には他者の役に立つ力があり、実際に役立っているという自信が不足している。
○「人間関係形成」に関する生徒の実態
・他者のよさを認めようとする気持ちはあるが、他者から認められている実感が薄い。

身に付けさせたい力・目指す生徒像

○「社会参画」
・集団の課題解決に向けて、協働して主体的に実践する生徒
○「自己実現」
・集団の課題解決に向けて、自らのよさを生かして実践する生徒
○「人間関係形成」
・集団の課題解決に向けた実践の中で、互いのよさを認め合い、よりよい人間関係を築こうとする生徒

研究主題

一人一人の自己有用感を高め、自主的・実践的な態度を育てる学級活動の工夫
～主体的に役割を決め、実践し、互いのよさを認め合う学習過程を通して～

研究仮説

生徒自らが集団の課題解決に向けて自分のよさを生かした役割を設定し、実践し、振り返りを行い、その実践を互いに認め合えれば、自己有用感が高まり、自主的・実践的な態度が身に付くであろう。

Ⅳ　研究方法

1　文献・資料による参考にした先行研究

・「中学校学習指導要領特別活動」（文部科学省　平成 20 年３月）
・「中学校学習指導要領解説　特別活動編」（文部科学省　平成 20 年７月）
・「中学校学習指導要領特別活動」（文部科学省　平成 29 年３月）
・「中学校学習指導要領解説　特別活動編」（文部科学省　平成 29 年７月）
・「学級・学校文化を創る特別活動（中学校編）」（国立教育政策研究所教育課程研究センター　平成 26 年６月）
・教育研究員研究報告書　中学校特別活動（東京都教育委員会　平成 25 年度～平成 28 年度）
・「『自信　やる気　確かな自我を育てるために』子供の自尊感情や自己肯定感を高める指導資料【基礎編】」（東京都教職員研修センター　平成 23 年３月）
・「『自信　やる気　確かな自我を育てるために』子供の自尊感情や自己肯定感を高める指導資料【発展編】」（東京都教職員研修センター　平成 24 年３月）
・「生徒指導リーフ『自尊感情』？それとも、『自己有用感』？」（文部科学省　国立教育政策研究所　平成 27 年３月）
・「評価基準の作成、評価方法等の改善のための参考資料（中学校特別活動編）」（国立教育政策研究所　平成 23 年 11 月）

2　実践研究

(1) 教材開発

学級活動の内容(1)学級や学校における生活づくりへの参画 イ 学級内の組織づくりや役割の自覚に基づき、生徒一人一人の自己有用感を高め、自主的・実践的な態度を育てる指導の工夫を検討し、指導計画と学習指導案を作成した。

(2) 授業以外での日々の実践

「振り返りカード」を作成し、生徒が日々の取組を定期的に振り返る機会を設定した。また、生徒が所属する係活動の取組と学級全体の様子を振り返ることで、活動への意識を高められるよう工夫した。

(3) 検証授業

学級における日常の係活動及び合唱コンクールにおける学級内の係活動を題材として、学級活動の内容(1) 学級や学校における生活づくりへの参画 イ 学級内の組織づくりや役割の自覚 に基づく検証授業を実施した。４回の検証授業を関連させ、生徒が自分のよさを生かして実践し、互いのよさを認め合う学習過程を設定した。

(4) 成果検証

本研究では、平成 25 年度の東京都教育研究員が開発した「学級活動に関するアンケート」の質問項目を改訂し、20 項目からなるアンケート（表１　ｐ6）を作成し、生徒の実態把握と成果の検証を行った。アンケートの項目は、特別活動において育成すべき資質・能力の三つ

の視点「自己実現」、「人間関係形成」、「社会参画」と関連付けて分析することとした。

なお、「人間関係形成」を７・10・11・12・14・15 の質問項目、「社会参画」を１・２・３・４・５・６・13 の質問項目、「自己実現」を８・９・16・17・18・19・20 の質問項目と関連付けている。

表１　学級活動に関するアンケート

これは学級活動に関するアンケートです。今の自分の気持ちや行動に近いものを一つ選び、数字に〇を付けてください。

4　あてはまる　3　どちらかといえばあてはまる　2　どちらかといえばあてはまらない　1　あてはまらない

①	私は学級のよいところと課題を理解している。	4　3　2　1
②	私は学級の課題解決（目標達成）に向けて行動したいと思う。	4　3　2　1
③	私は自分から積極的に学級や班の活動に取り組んでいる。	4　3　2　1
④	集団で活動するときに、人任せにしてしまうことがある。	4　3　2　1
⑤	私は学級の課題解決（目標達成）のために行動している。	4　3　2　1
⑥	私は学級の課題解決（目標達成）のために友達と協力して取り組んでいる。	4　3　2　1
⑦	自分の学級は居心地がよい。	4　3　2　1
⑧	学級活動の時間で、自分の意見や考えを紙に書くことができる。	4　3　2　1
⑨	話合い活動で自分の意見や考えを班員に伝えることができる。	4　3　2　1
⑩	相手の意見や考えが違っていても、相手の意見や考えを認めることができる。	4　3　2　1
⑪	友達と意見や考えが違っていても、自分が正しいと思うことを主張できる。	4　3　2　1
⑫	私は友達の意見を生かしながら話合い活動に取り組んでいる。	4　3　2　1
⑬	私は話合い活動に積極的に参加している。	4　3　2　1
⑭	友達は私のよいところを認めてくれている。	4　3　2　1
⑮	私は友達のよいところを見付けようとしている。	4　3　2　1
⑯	私は集団活動を行う上での自分の課題を理解している。	4　3　2　1
	理解している自分の課題を書いてください。（自由記述）	
⑰	私は集団活動を通して、自分の成長を感じる。	4　3　2　1
	自分の成長を感じるところを書いてください。（自由記述）	
⑱	私は学級の役に立っていると思う。	4　3　2　1
⑲	私には人の役に立てる力があると思う。	4　3　2　1
⑳	私は人のために力を尽くしたい。	4　3　2　1

（　　）年（　　）組（　　）番　氏名（　　）

Ⅴ　研究内容

1　実践的研究(1)　教材開発

学級生活の充実や検証授業に向けて、一人一人が役割を実感し、意欲的に実践するためには、生徒が主体的に組織をつくり、実践内容を工夫することが教材が有効であると考えた。そこで、生徒が学級の課題を発見し、具体策を考え、役割を分担するための事前アンケートを作成した。また、生徒が振り返りの中で互いのよさを認め合い、次の課題解決に主体的に向かえるよう、相互評価や自己評価のための中間アンケートや振り返りのワークシートを作成した。

(1)　ねらい

ア　全員の意見を聞き、学級目標や編成に反映させるために、事前アンケートを行う。

イ　係活動を振り返り、互いを認め合い、よりよい係活動を行うために、中間アンケートを用いて係のよかった点と改善策を考える。

ウ　振り返りのワークシートを用いて、授業での学級や個人の活動を振り返り、互いを認め合い、学級活動に意欲的に取り組めるようにする。

エ　役割を日常的に意識することや、活動状況を振り返るために、振り返りカードを活用する。

(2)　使用にあたって

＜事前アンケート＞

ア　最初にアンケートをとり、学級目標を決める。

イ　学級目標を達成するための課題や改善策を考える。

ウ　解決策から、自分のよさを生かして、行いたい取組を選ぶ。

【事前アンケートの例】　１－(1)－ア

～合唱コンクールに向けての事前アンケート～

①　合唱コンクールに向けた学級の目標をつくろう。

②　①を達成するために、これまでのクラスの取組（体育祭や音楽の授業、昨年度の合唱コンクール等）を踏まえて課題を考え、右の表に書きましょう。

③　課題解決のための具体的な取組を考え、右の表に書きましょう。

④　②を解決するために、あなたはどの取組を行ってみたいですか。自分が考えた解決策の中から選び、丸を付けましょう。

課　　題	解 決 策

＜中間アンケート、振り返りワークシート、振り返りカード＞

ア　課題改善に向けて各係で取り組んでよかった点と改善点を書き、相互評価を図る。

イ　自己の係活動への振り返りを行い、自己評価を図る。

【中間アンケートの例】１－(1)－イ

係名	担当		よかった点（Thank you!）提案（Please!）を書こう
△△△	○○	▼▼	□□□□□□□□□□□
◎◎◎	××	◇◇	▲▲▲▲▲▲▲▲▲▲

【振り返りワークシートの例】１－(1)－ウ

合唱コンクール全体を通して

振り返りシート

年　　組　　番　名前＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

【自己評価】　　↓○で囲もう

１　合唱コンクールの取組は、自分の成長につながった。・・・・・・・・・・・・Ａ　Ｂ　Ｃ　Ｄ

２　合唱コンクールへの取組は、クラスの成長につながった。・・・・・・・・・・Ａ　Ｂ　Ｃ　Ｄ

３　合唱コンクールを通して、学んだことがたくさんあると思います。
今後の生活に生かせることは、何かありますか。

【振り返りカードの例】１－(1)－エ

学級目標		チーム	係

個人の達成度	係の取組	クラスの達成度	練習の振り返り

年　　組　名前

２　実践的研究(2)　検証授業

(1) 題材　「係活動で自分のよさを発揮できたことを基に、合唱コンクールに向けて学級目標を達成するために係をつくり活動しよう」

(2) 題材設定の理由

生徒が、一人一人の自己有用感を高め、自主的・実践的な態度を育てるためには、生徒が主体的に組織をつくり、互いのよさを認め合いながら学級の役に立っていることを実感できる取組を行うことが大切であると考えた。このことを、実際の学級活動で想定すると、係活

動において自分たちで目標達成に向けて必要な係をつくり、自分のよさを生かした係活動を通して、一人一人が学級の役に立っていることを実感し、互いに認め合うことのできる取組が考えられた。そこで、本実践では「係活動で自分のよさを発揮できたことを基に、合唱コンクールに向けて学級目標を達成するために係をつくり活動しよう」を題材として設定した。

(3) 指導のねらい

ア　学級集団における個人の役割や改善点について学級全体で見つめ直すことで、学級をよりよくするための自主的・実践的な態度や、互いに認め合い協力していく望ましい人間関係を育てる。

イ　事前アンケートを基に、学級全員の意見から作成された合唱コンクールに向けての学級目標を達成するために、全員がチームに所属し、話合い活動を通して係活動をつくり、自分のよさを生かせる係に所属することで、自主的な態度を育てる。

ウ　合唱コンクールに向けた学級目標を達成するための係活動の実践を相互評価し、互いの係活動のよい点や改善点を認め合い、自己有用感や実践的な態度を育てる。また、実践後の振り返りを行うことで、その後の学級活動や学習活動における自主的態度等に生かしていく。

(4) 評価規準

集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団や社会の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
学級の課題解決や向上に関心をもち、それに向けたこれまでの取組の成果や自己の新たな課題を発見しようとしている。	学級の一員として自分のよさを生かした自己の役割と責任を自覚し、学級の課題解決に向けて多様な意見を生かして話し合い、その方法を考え、判断し、実践している。	集団生活の向上を目指すことの意義や、それに向けて集団として意見をまとめる話合い活動の仕方について理解している。

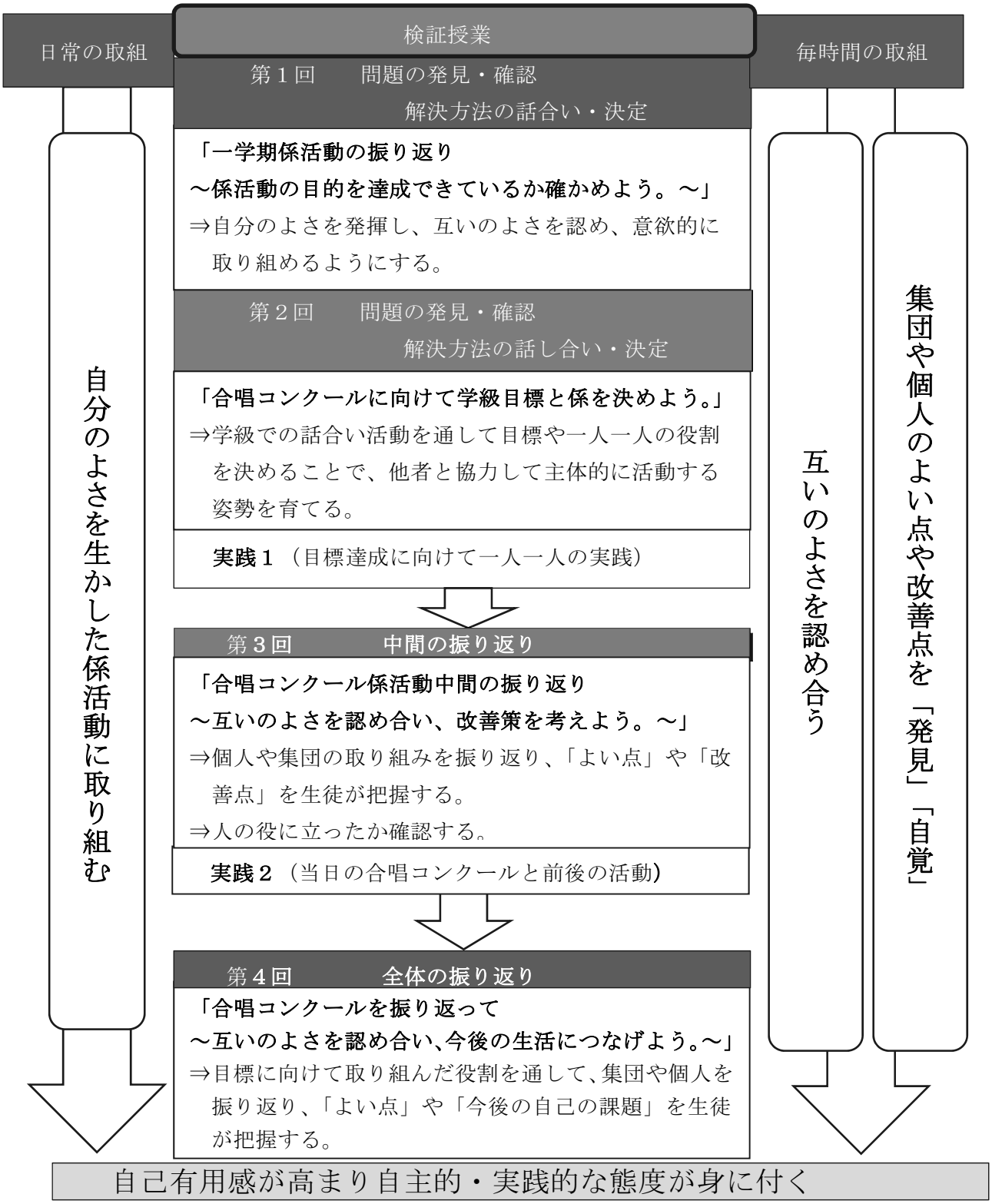
(5) 指導の過程

時期	活動の内容	指導上の留意点	目指す生徒の姿と 評価方法
7月中旬	◇【検証授業 第１回】 ・「１学期係活動の振り返り～係活動の目標を達成できているか確かめよう。～」	・事前に係活動についてのアンケート調査を行い、自己及び他生徒の活動について振り返らせる。その際、課題とよくできた点を書き、互いのよさを認め合うことに意識を向かせ、次の係活動の目標達成に向けて	【関心・意欲・態度】 ・仲間からの評価を受けて、今後の係活動について、自分のよさを生かした目標をもって主体的に取り組もうとしている。 ［観察］［ワークシート］

		意欲的に取り組めるようにする。	
9月中旬	◇【検証授業 第２回】 ・「合唱コンクールに向けて学級目標と係を決めよう。」	・事前に合唱コンクールに向けた学級目標と係についてアンケート調査を行う。企画会議（企画委員５、６名による会議）でアンケート結果をまとめる。 ・アンケート結果を基に、学級目標を決定し、その目標を達成するために、係活動で自分のよさを生かしてそれぞれが行いたい具体策を決めて発表する。	【知識・理解】 ・学級目標の達成のために、自分の係でできることを話合うことの意義や話合いのまとめ方を理解している。 ［観察］ 【思考・判断・実践】 ・自分たちで考えた学級目標と係について、その理由を分かりやすく伝えている。 ［観察］［ワークシート］
10月中旬	◇【検証授業 第３回】 ・「合唱コンクール係活動中間の振り返り～互いのよさを認め合い、改善策を考えよう。～」	・中間アンケートを行い、自己及び他の生徒の実践について振り返らせる。その際、課題と共に自他のよくできた点を書き、互いのよさを認め合い、次の活動に意欲的に取り組めるようにする。 ・課題については具体的な改善策が出るよう、事前に考えさせる。	【思考・判断・実践】 ・学級目標の達成に向けて、係活動の課題を基にした改善策を話し合って決め、その理由を分かりやすく伝えている。 ［観察］［ワークシート］
10月下旬	◇【検証授業 第４回】 ・「合唱コンクールを振り返って～互いのよさを認め合い、今後の生活につなげよう。～」	・自己及び他の生徒の実践について振り返らせる。それを基にして、互いのよさを認め合うとともに、これからの自己の課題を考えさせる。	【関心・意欲・態度】 ・集団の向上に関わることに関心をもち、合唱コンクールを通しての取組の成果や、今回の経験を今後の集団生活へ生かそうとしている。 ［観察］［ワークシート］

【研究仮説】

生徒自らが集団の課題解決に向けて自分のよさを生かした役割を設定し、実践し、振り返りを行い、その実践を互いに認め合えれば、自己有用感が高まり、自主的・実践的な態度が身に付くであろう。



図：指導の過程　構想図

(7) 検証授業

【第１回】

ア　本時の活動のテーマ

「一学期係活動の振り返り～係活動の目的を達成できているか確かめよう。～」

（内容項目：（１）　ア　学級や学校における諸問題の解決）

イ　本時のねらい

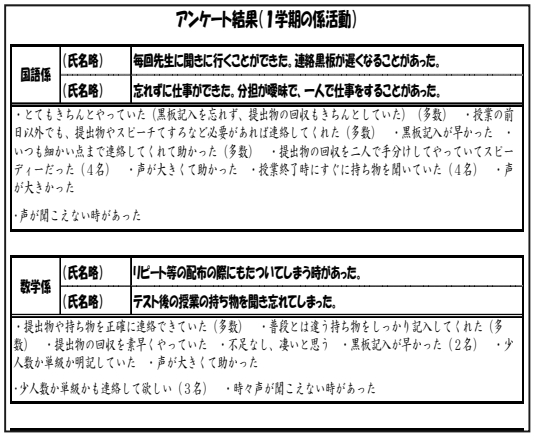
学級内のアンケート結果から改善が必要な点を分析し、学級集団における個人の役割や、一人一人の課題を考え、学級をよりよくするための自主的、実践的な態度を育てるとともに、うまくできた点、できなかった点を互いに認め合い、協力して改善していこうとする望ましい人間関係を育てる。

ウ　本時の展開

	学習活動・学習内容	指導上の留意点	評価方法
活動の開始5分	1　学級委員の話（目的や進め方）「係活動の改善」 2　担任の話（活動への期待と補足）	・必要な掲示物や配布物を事前にまとめておく。 ・活動意欲を喚起するよう助言する。	
活動の展開35分	3　アンケート結果の確認	・アンケート結果を配布する。 ・この結果に基づき、話合い活動と発表を行うよう、学級委員から望ましい係活動への改善を目指せるように説明する。	
	4　係ごとの話合い ・うまくできなかった点について意見交換する。 ・うまくできなかった原因を整理し、改善策を考え、掲示用の紙に記入する。	・机を係ごとの小集団にし、話合いが深まるようにする。 ・課題が指摘されていない場合でも、工夫の余地について検討させる ・話合いが円滑に進むよう、原因には「計画性」「仕事分担」「責任感や意欲」「人間関係」「用具」などの要素があることを学級委員から事前に説明する。 ・建設的な意見交流となるようにする。 ・改善策を修正する必要があれば、適宜助言する。	【関心・意欲・態度】 ・仲間からの評価を受けて、今後の係活動について自　分のよさを生かした目標をもって主体的に取り組もうとしている。 ［観察］［ワークシート］

活動の展開35分	5　各係の発表と意見交流 ・机を元に戻す。 ・各係で決定した改善策を発表し合う。 ・提案やアドバイスを述べる。		
まとめの活動10分	6　学級委員のまとめ 7　担任の話 ・活動についての評価を聞く。 8　振り返りシートへの記入	・係で決めた改善策を実践できるよう具体的な助言を行う。	

エ　資料等



アンケート結果（1学期の係活動）

国語係	（氏名略）	毎回先生に聞きに行くことができた。連絡黒板が遅くなることがあった。
	（氏名略）	忘れずに仕事ができた。分担が曖昧で、一人で仕事をすることがあった。

・とてもきちんとやっていた（黒板記入を忘れず、提出物の回収もきちんとしていた）（多数）　・授業の前日以外でも、提出物やスピーチをするなど必要があれば連絡してくれた（多数）　・黒板記入が早かった　・いつも細かい点まで連絡してくれて助かった（多数）　・提出物の回収を二人で手分けしてやっていてスピーディーだった（4名）　・声が大きくて助かった　・授業終了時にすぐに持ち物を聞いていた（4名）　・声が大きかった

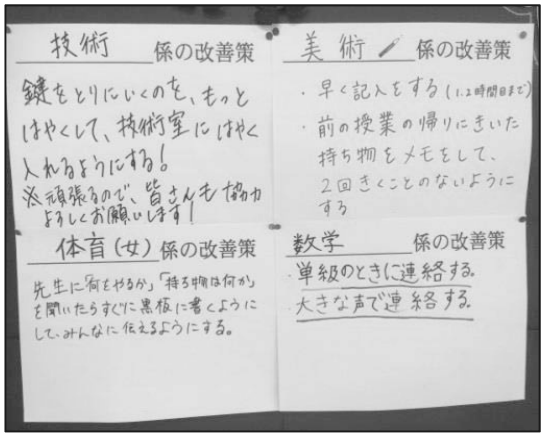
・声が聞こえない時があった

数学係	（氏名略）	リピート等の配布の際にもたついてしまう時があった。
	（氏名略）	テスト係の授業の持ち物を聞き忘れてしまった。

・提出物や持ち物を正確に連絡できていた（多数）　・普段とは違う持ち物をしっかり記入してくれた（多数）　・提出物の回収を素早くやっていた　・不足なし、凄いと思う　・黒板記入が早かった（2名）　・少人数か単級か明記していた　・声が大きくて助かった

・少人数か単級かも連絡して欲しい（3名）　・時々声が聞こえない時があった

アンケート結果抜粋



授業後の掲示

オ　検証授業を終えて

(1) 生徒の様子

・「振り返りシート」を見ると、多くの生徒が「自分の仕事をクラスメートがこんなに見てくれているとは思わなかった」、「ほめてくれるコメントをもらえてうれしかった」という内容の感想を記入していた。

・生徒全員が係活動においてそれぞれの役割を全うしているにもかかわらず、自己有用感が高くない原因として、日頃の学校生活の中で今回のような生徒同士で相互評価を行う機会が少ないことが考えられた。

(2) 指導の工夫

・教師が意図的、計画的に、生徒同士による相互評価の機会を教育活動内で設定することが自己有用感の向上には欠かせないことが分かった。

【第２回】

ア　本時の活動のテーマ

「合唱コンクールに向けて学級目標と係を決めよう。」

（内容項目：（１）　ア　学級や学校における諸問題の解決）

イ　本時のねらい

学級で事前に行ったアンケートの結果から作成された合唱コンクールに向けた学級目標達成のために、主体的な係活動や話合いによって課題解決ができる、自主的・実践的な態度を育てる。

ウ　本時の展開

	学習活動・学習内容	指導上の留意点	評価方法
活動の開始2分	1　本時の活動についての説明	・必要な掲示物や配布物を事前にまとめる。 ・企画委員が活動の説明をする。	
活動の展開①5分	2　アンケート結果の配布・確認 3　学級目標の発表	・アンケート結果を配布する。 ・企画委員から、アンケート結果の説明を行い、生徒の意志を確認して学級目標を決定する。 ・主体的に話し合う理由が目標達成のためであることを説明し、活動の目的を確認させる。	
活動の展開②20分	4　話合い（チーム・係ごとに学級目標達成のためにできること）	・企画委員が進行する。 ・事前アンケートの結果を分類して企画委員がつくった三つのチームで話し合う。 ・チームの話合いが更に深まるように、チームを５、６人で編成する係に分け、話し合わせる。 ・課題を受け、係でできる具体的な方策を検討させる。 ・話合いで係の案が出ない場合を想定し、企画委員が事前に検討した案を考えておく。 ・ホワイトボードを用意し、係員全員で書き込めるようにすることで、出てきた意見を集約しやすくする。	【知識・理解】 ・学級目標の達成のために、自分の係でできることを話合うことの意義や話合いのまとめ方を理解している。 ［観察］

活動の展開③20分	5　各係の発表と意見交流 ・各係で決定した案の発表と意見交流	・話合いの結果を発表用ワークシートに記入し、生徒自身で他係への提案やお願いした」ことを述べ、学級目標達成に向けて意見交流を図る。 ・建設的な意見交流となるよう留意する。 ・提案を改善する必要があれば適宜助言する。	【思考・判断・実践】 ・自分たちで考えた学級目標と係について、その理由を分かりやすく伝えている。 ［観察］［ワークシート］
まとめの活動3分	6　本時の振り返りと今後の進行を確認 7　担任の話 活動についての評価を聞く。	・決定事項を主体的に実践できるよう、具体的な助言を行う。	

エ　資料等

合唱コンクールの学級目標の掲示

話合い活動によって決まったチーム・係活動の内容など

チーム名	チームワーク	実　技	練習計画・その他
係名	注意 まとめ 挨拶（朝）（帰り） 声かけ 一言	発声サポート 音程サポート	練習日程 企画連絡 準備片付

オ　検証授業を終えて

(1) 生徒の様子

・自分で選択したチームで互いを尊重しながら係を決めるための話合い活動に取り組んだことや、自分のよさを生かせる係を選択したことで、話合い活動を意欲的に取り組めた。

・チームや係ごとにホワイトボードを活用して話し合ったことで、具体的な改善策をキーワードでつかむことができ、話合い活動が円滑に進行していた。

・係ごとに話合いで決まった内容を発表することで、学級全員が目標に向けて共通理解を図れた。

(2) 指導の工夫

・話し合って決定した合唱コンクールに向けての学級目標と発表用ワークシートを教室内に掲示したことで、生徒の係活動に対する意識が高まった。

【第３回】

ア　本時の活動のテーマ

「合唱コンクール係活動 中間の振り返り～互いのよさを認め合い、改善策を考えよう。～」

（内容項目：（１）イ　「学級内の組織づくりや役割の自覚」）

イ　本時のねらい

学級目標を達成するための係活動を振り返り、成果（自分のよさを生かせた点や仲間が各自よさを生かせていた点）と課題（よさを取り入れた点）を認識し、改善策（それぞれのよさを取り入れた活動）を話し合い、それぞれのよさを生かした方策を決定することを通して、自己有用感を高めるとともに、目標に向かって自主的・実践的な態度を育む。

ウ　本時の展開

	学習活動・学習内容	指導上の留意点	評価方法
活動の開始5分	1　本時の活動を理解する。	・実行委員に活動の目的や流れを説明させる。	
活動の展開35分	2　グループで話し合う。 (1)各係で活動の改善策を考える。 (2)各係の提案についてチームで話し合う。 (3)各係で活動の改善策をまとめる。 3　決定したことを学級全体に発表する。	・事前に実施した中間アンケートの結果に基づいて、各係で改善策を考える。意見が出し合えない場合、「計画性」「役割分担」「連絡や相談」「積極性」「用具」など、細かく改善できることを考えるよう、実行委員に説明させる。 ・各係の提案についてチームで意見を出し合うことで、よりよい具体策が出るようにする。 ・チームでの話合いでの意見交換を経て決定した改善策を発表用の画用紙に記入する。また、全員が発表に参加するための役割分担をさせる。 ・各係で決定した改善策について、学級全体で意見交換を行い、共通理解を図る。	【思考・判断・実践】 ・学級目標の達成に向けて、係活動の課題を基にした改善策を話し合って決め、その理由を分かりやすく伝えている。 ［観察］［ワークシート］

まとめの活動10分	4　本時の活動を振り返り、今後の活動を確認する。	・本時の活動を自己評価するとともに、仲間のよかった点を振り返り用のワークシートに記入する。	

エ　資料等

合唱コンクール係活動　中間アンケート結果

準備・計画チーム		
目標係	担当者のコメント	皆が分かるように書く。実行委員が言ったことなども書こうと思う。
		目標がなかなか思いつかない時があった。

・目標が明確で良い。
・その日にあった目標が立てられている。
・一つ一つ乗り越えていく感じでよい。
・毎日目標を見て「今日はここを頑張ろう」「ここを意識しよう」と思える。
・黒板に掲示するとみんながもっと意識すると思う。
・朝学活で発表したら更によいと思う。
・達成度などをつけてもよいと思う。

アンケート調査の結果を基に、活動内容を改善

合唱コンクール大成功プロジェクト

チーム名	係名
準備・計画チーム	目標係
担当者	
活動内容 ・毎回の練習の目標を考えてホワイトボードに書く。	
クラスのみんなにお願いしたいこと ・目標を達成できるように頑張ろう！	

合唱コンクール大成功プロジェクト（中間の振り返り）

チーム名	係名
準備・計画チーム	目標係
担当者	
活動内容（改善した具体策） ・黒板の端に掲示する。 ・朝練習または朝学活で発表する。 ・達成度を書く（終学活で手を挙げてもらう）。	
クラスのみんなにお願いしたいこと ・終学活で達成度を確認するので手を挙げてください。	

オ　検証授業を終えて

(1) 生徒の様子

・中間アンケートに、各係の活動について、よい点と改善策についてのアドバイスを具体的に記入していた。このことは、生徒の自信を深め、意欲の向上につながった。

・振り返りのワークシートを活用し、友達のよかった点を事後に発表したことにより、生徒が互いに認め合うことへとつなげられ、以後の係活動が目標に向けて活性化された。

(2) 指導の工夫

・決定した係の改善策を教室内に掲示したことで、合唱コンクールの成功に向けて互いのよさを取り入れながら係活動に取り組んでいることを意識できるように工夫した。

【第４回】

ア　本時の活動のテーマ

「合唱コンクールを振り返って～互いのよさを認め合い､今後の生活につなげよう。～」

（内容項目：（１）　イ　「学級内の組織づくりや役割の自覚」）

イ　本時のねらい

学級目標を達成するために取り組んだ係活動を振り返り、成果（自分のよさを生かせた点や仲間が各自のよさを生かせていた点）を話し合い、発表することを通して、自己有用感を高める。また、自己の活動を振り返らせ、これからの集団生活にどう生かしていくか考えさせ、今後の学級活動へ主体的に取り組む姿勢を育む。

ウ　本時の展開

	学習活動・学習内容	指導上の留意点	評価方法
活動の開始2分	1　本時の活動について ・本時の活動の説明をする。	・必要な掲示物や配布物を事前にまとめる。 ・実行委員に活動の目的や流れを説明させる。	
活動の展開44分	2　チームごとに係活動の相互評価	・付せんを用いて、互いの係活動についての評価をホワイトボードに貼っていく。	
	3　係ごとの振り返り	・評価を見て、各係の活動を振り返らせ､話し合いによって、互いのよさを生かしながら取り組んだことについて、よかったことや、反省点、学んだことをまとめさせる。 ・決定した内容を発表用の用紙に記入する。また、全員が発表に参加するための役割分担をさせる。	【関心・意欲・態度】 ・集団の向上に関わることに関心をもち、合唱コンクールを通しての取組の成果や、今回の経験を今後の集団生活へ生かそうとしている。 ［観察］［ワークシート］
	4　発表	・全員が発表を行う。	
	5　個人での振り返り	・アンケート用紙に、これまでの活動を個人で振り返らせて記入させる。	

まとめの活動4分	6　これまでの活動の振り返りと今後の学級への思い 7　担任の話 　活動についての評価を聞く。	・これまでの活動を実行委員が総括し、今後の学級活動の在り方などを、実行委員を通して得た経験を基に発表する。	

エ　資料等

合唱コンクール大成功プロジェクト

チーム名　歌づくりチーム　係名　音符係

担当者

係活動を振り返って（良かった点や反省点）
楽譜に記号などしっかりかけた。
笑顔や姿勢のこともかけばよかった。
書くだけではなく、声を出して、説明すればよかった。
みんな、書いた記号にしたがって歌ってくれた。

係活動を通して学んだこと
協力、団結力が大事なことがわかった。
しっかりみんなが楽譜をみてくれて、実行してくれた。
やる気などが伝わった。

係から皆へ一言
みんなありがとうございました。
笑顔で歌ってくれたり、記号通りに歌ってくれてありがとう。

振り返りシート　1年1組　　番　氏名

合唱コンクール全体を通して

【自己評価】　↓○で囲もう

1 合唱コンクールへの取り組みは、自分の成長につながった。・・・・・・・ A　B　C　D

2 合唱コンクールへの取り組みは、クラスの成長につながった。・・・・・・ A　B　C　D

3 合唱コンクールを通して、学んだことがたくさんあると思います。

今後の生活に生かせることは何かありますか。

これからの授業で発言をしたり、静かに授業をうけたり、いろんなところにいかせると思います。また、今回努力したり協力したりする、心がけを部活動、クラブチームなどに成長を発揮できると思います。

オ　検証授業を終えて

(1) 生徒の様子

・付せんによる相互評価の記述内容を肯定的に受け止めたようで、アンケートの「係から皆へ一言」欄に、付せんに書き込みのあった記述を基に、他生徒への感謝の言葉を書く姿が見られた。

・アンケートの「係活動を通して学んだこと」欄には、多くの生徒が前向きな気持ちで成果を記入していた。また、今後に向けて、「学級の役に立つことを考えようと思った」等を記入する生徒も見られた。

(2) 指導の工夫

・振り返りシートを用いて、授業内で交流する機会を設定したことで、生徒が自分の成果と課題に向き合い、学級全体でそれぞれの成果と課題を確認し合うことができ、学びを深めることにつながった。

Ⅵ　成果の検証

1　特別活動において育成すべき資質・能力の三つの視点からの分析

本研究で作成した「学級活動に関するアンケート」（６ページ参照）の質問項目を、新学習指導要領解説に示された、特別活動において育成すべき資質・能力の三つの視点である「自己実現」「人間関係形成」「社会参画」と関連付けて分析した。分析は、事前調査である７月と事後調査の 10 月のアンケート結果から、回答番号の１～４を点数とし、それぞれの平均値を算出し、生徒の意識の変容を比較することで行った。

(1) 自己実現に対する意識の変化

「自己実現」に関する質問項目は右に示す図１のとおりである。その結果、六つの質問項目の中で、全ての平均値が上昇した。特に、「⑯私は集団活動を行う上での自分の課題を理解している。」、「⑱ 私は学級の役に立っていると思う。」、「⑲ 私には人の役に立てる力があると思う。」の３項目については、上昇が見られた。

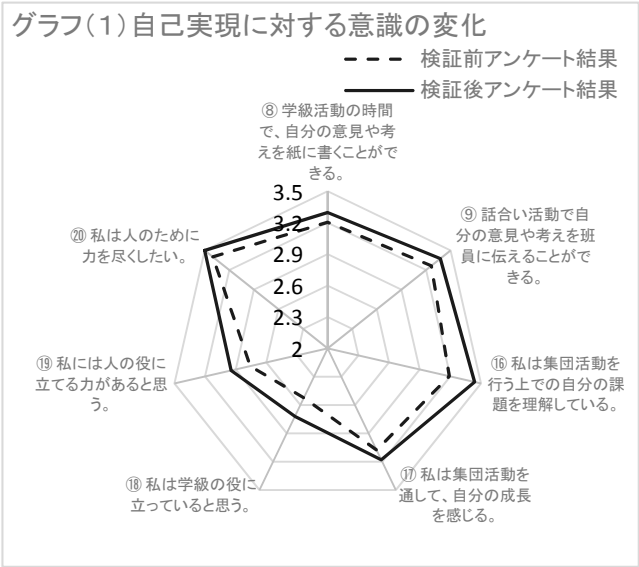


図１

７月当初の生徒の意識としては、自分が学級内で主体的に行動したいことが見定まらず、人の役に立つ力を見いだせないために、学級の役に立っていないと判断する生徒が多かったと推測されるが、検証授業を行い、自分の興味関心やよさを生かせる係活動に従事することで、自信をもち、人の役に立つ力を認識することができたと考えられる。検証後のアンケートでは、「自分の成長を感じるところ」として「自分から積極的に行動するところ」や「人任せにすることが減った」という意見が寄せられた。

自分の興味関心やよさを生かせる係活動を受けもち、その活動に全力を尽くして、学級に貢献することで自己有用感が高まった結果であると考えられる。

(2) 人間関係形成の意識の変化

「人間関係形成」に関する質問項目は右に示す図２のとおりである。各項目の数値は検証後に上昇しているが、特に「⑩相手の意見や考えが違っていても、相手の意見や考えを認めることができる。」の項目で、検証前と比較して、数値の上昇が大きく見られた。このことは、話合い活動を行っていく中で、互いを肯定的に評価し合いながら目標達成に取り

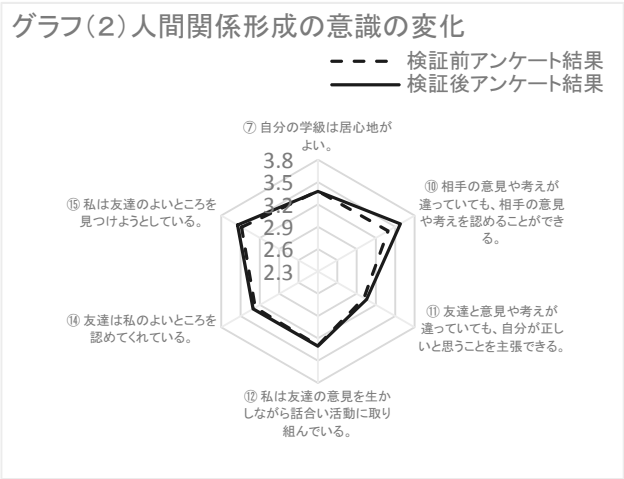
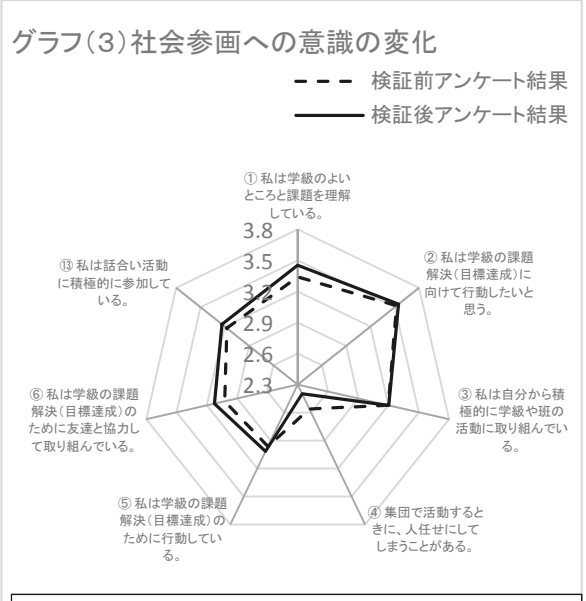


図２

組んだことで、他者理解が深まっていき、自分の意見と違いがあったとしても、その本意は学級への所属意識を高め、自己有用感を高めるものとして認められるようになったことが理由であると考えられる。

(3)　社会参画への意識の変化

「社会参画」に関する質問項目は右の図３に示すとおりである。全体的な数値は前向きな評価に上昇している。特に、変化が顕著な項目としては「④集団で活動するときに、人任せにしてしまうことがある。」が挙げられる。これについては、前向きな評価に大きく意識が変わっていることが分かる。このことは、集団での目標に取り組むにあたって自分のやりたい仕事に従事できたことが、積極的に仕事に関わることにつながり、生徒の意識の変化を促すことになったと考えられる。全ての項目において、数値が上昇したことについては、互いを評価し、よさを認め合う話合い活動が積極的な集団活動への参加を促したと考えられる。



※④の項目に関しては、質問がマイナス評価となっているため、数値が減少した方が肯定的な評価となる。

図３

２　学級活動におけるアンケートの自由記述欄や取組後の生徒の作文等からの分析

以下にアンケートの自由記述欄や、取組後の生徒の作文などから成果を分析する。

(1) 学級活動に関するアンケートからの抜粋

本研究では、「生徒自らが集団の課題解決に向けて自分のよさを生かした役割を設定し、実践し、振り返りを行い、その実践を互いに認め合えれば、自己有用感が高まり、自主的・実践的な態度が身に付くであろう。」との研究仮説に基づき、検証授業を行ってきた。学級活動に関するアンケートでは、①集団活動を行う上での自分の課題、②集団活動を通して自分の成長を感じる部分に関連した項目に自由記述欄を設けた。

①　「私は集団活動を行う上での自分の課題を理解している。」

②　「私は集団活動を通して、自分の成長を感じる。」

上記の項目について肯定的評価（３、４）を選んだ生徒の割合とその変化

① 事前アンケート　85%	事後アンケート　91%	→	6 ポイント上昇
② 事前アンケート　80%	事後アンケート　84%	→	4 ポイント上昇

上記の項目について否定的評価（１、２）を選んだ生徒の割合は

① 事前アンケート　15%	事後アンケート　9%	→	6 ポイント減少
② 事後アンケート　20%	事後アンケート　16%	→	4 ポイント減少

生徒の記述の一部を以下に掲載する。

① 「私は集団活動を行う上での自分の課題を理解している。」

- 積極的に行動する。
- 声掛けなど周囲に注意する。
- クラスなど大人数の前で発言する。
- リーダーの指示に従う。
- 役割を果たすタイミングを見付ける。

② 「私は集団活動を通して、自分の成長を感じる。」

- 自分から行動できるようになった。
- 人前で堂々とできるようになった。
- あまり話さなかった人とも話せるようになった。
- 他の人の意見や気持ちを考えながら活動できるようになった。
- 協力して達成したときの嬉しさを感じられるようになった。

上記の①からは、今回の検証授業を行ったことで、自分の課題を具体化して捉えられており、今後の目標につながる感想になっていることが分かる。また、②からは、自分に自信がもてるようになり、他者とも積極的に交流ができるようになったことが分かる。高い達成感を味わった生徒については、集団活動における嬉しさや喜びにまで言及がされており、成果について自分で自覚をもって振り返ることができている記述になっている。

(2) アンケート:「今後の生活に生かせることは何かありますか」の意見からの抜粋

以下の生徒の意見は、合唱コンクールに係る全ての取組を終えた時点でのアンケート:「今後の生活に生かせることは何かありますか」の問いに対する、自由記述の一部である。

> 団結はどこでも大事だと思いました。友達と意見がぶつかりあっても、感情にまかせて怒鳴らないで、しっかり話し合うことが大事だと思いました。

振り返りシートを用いて互いを評価して活動を行ったことで、生徒の信頼感と団結力が増した。活動を続ける中で、他者と自分の意見に違いがあったとしても、他者の思いをくみ取ろうとする姿勢を育てることができた。話合うことの大切さを認識させることにつながった。

> 次の行事につながっていくと思いました。みんなが仲よくなったと思います。係があったからみんなでやる気を出せたのだと思います。

班やチームを通して話合い活動をする機会が増えた。これにより、普段関わりの少ない人とも交流を深められることができた。係という自分に課された役割があることで、集団活動における自分のなすべきことが明確になり、生徒は活動が行いやすく、またやる気の向上が見られたと言える。

> いろいろな人と協力することが大切だと思いました。笑顔で歌うことによって、毎日、笑顔でいたいと思えるようになりました。クラスのみんなとの仲のよさが深まりました。今後の生活で生かすことは、最後まで諦めないことです。

合唱コンクールの係を生徒が自由に考える中で、クラスに何が必要かを検討し、自分に何ができるかを考える機会となった。全員が目標に向かって、それぞれの係活動を行うことで、学級に一体感が生まれ、協力することの大切さを認識する機会となった。また、盛り上げ役などのユニークな係が生まれたことで、学級の明るい雰囲気を醸成することにつながった。

クラスで何かをやるっていうのは初めてではないけれど、とてもよかったなと思いました。これからも合唱コンクールみたいにクラスで行動することが多いと思うので、今回やった整列や声出しなど生かせていけるといいなと思います。

自分たちに必要なものが何かを考え、係を自由に創出したことで、「自分たちで成し遂げる」という意識が非常に高かった。そのため、合唱コンクールを終えても、今後も学級に必要と思われる係や、学級に貢献できる自分の役割を認識することができた。一つの行事を終えた後に、今後の学級生活の向上へと意識が向けられたことがよかった。

Ⅶ　研究の成果

1　自分の役割の選択（主体性、実践的な態度）

集団の中で自分が所属する小集団を他者から指定されるのではなく生徒自ら選択することで、当該小集団の役割や自分の責務を遂行しようとする意識を高めることができた。このことは、今後の学級活動の話合い活動において、自分の意見を形成したり、他の生徒との合意形成を図る上でも、より意欲的に取り組む主体的な態度の育成につながる。生徒が集団の中で自分のよさを発揮するうえで、この学習過程を確立でき、主体的・実践的な態度が育成された。

2　生徒間の相互評価（自己有用感）

生徒一人一人の活動内容を自己評価するとともに、生徒間での相互評価も行うことで自分が学級の形成者であることを自覚するだけでなく、自分の活動を肯定的に捉え、自分のよさに気付くことにつながった。学級の生徒全員が全クラスメートの活動を評価し、それを書き残し、また見やすいように一覧表として整理する活動は、生徒同士が互いのよさを認め合ううえで実施する意義があった。このような活動の上に育んだ自己有用感を基礎として、他者の個性を尊重する意識や豊かな人間関係を育てる態度が育成でき、自己有用感が向上した。

3　学習過程の設定（生徒による検証改善サイクル）

生徒が自分たちのよさをより生かすためには、自ら立てた目標に向かって努力し、設定された区切りにおいて個人や集団の達成度を評価し、目標の修正や手立ての工夫を行う学習過程（概略を以下に記載する）を構築することに効果が見られた。教師が意図的、計画的にプロセスを設定することが重要である。

【学級活動における学習過程】

①問題の発見・確認、②解決方法の話合い、③解決方法の決定、④決めたことの実践、⑤振り返り

4　教具の工夫及び活用

話合い活動を行うために、ホワイトボードや付せんを使用させたことで、考えが可視化され、意見の積み上げや集約へとつなげることができた。また、生徒が発表をする時に、発表内容を記入したプリントを掲示しながら行ったことで、聞き手の側からは理解しやすく、発表者は発表内容のプロットを説明しやすくなった。発表が得意な生徒、苦手な生徒、また聞くことが得意な生徒、苦手な生徒と様々な生徒がいる中で、発表内容を可視化できる道具を使ったことは全員が発表に集中しやすくすることができた。

Ⅷ　研究の課題

1　身に付けさせたい力、目指す生徒像の「自己実現」における「自らのよさを生かして実践する生徒」の設定について

身に付けさせたい力、目指す生徒像の「自己実現」において「自らのよさを生かして実践すること」を設定したが、生徒が学級活動の中でどのように「自分のよさを生かすのか」、また、生徒が「自分のよさを生かして活動しているか」を、授業実践で十分に検証することができなかった。今後の授業実践において、具体的な検証方法を探る必要がある。

2　自他の個性を理解し尊重する教育活動の充実

本研究における成果検証の手法として実施した「アンケート」の項目 18「私は学級の役に立っていると思う」に対して自己肯定的な回答の割合が低かった原因を考えた場合、必ずしも「役に立ててない」と自覚しているわけではなく、「役に立てているのか自分では分からない」からこのような回答結果となったとも考えられる。

実際に、生徒は日頃の学校生活において様々な活動を通して集団に貢献しており、学級の仲間からも十分に評価されているものの、そのことを生徒自身が知ることのできる機会が少ないことを改めて認識させられた。自己有用感を高めるとともに、自己確立や自己実現の基盤を育成するために自他のよさを認め合い、互いを尊重し協働する体験ができる学級活動を更に充実させることが重要である。

なお、本研究においては、生徒が所属するそれぞれの係活動のよさを認め合うことはできたが、生徒個人のよさを学級全体で認め合うまでには至らなかった。「あなたのここがよい」と、生徒一人一人が自分のよさをつかみ、生かして、相互に認め合う学級活動を平行して取り組ませることで、新中学校学習指導要領特別活動（平成 29 年３月）の目標に近づくことが課題である。

3　他の活動や学校行事との関連付け

今回の研究は日頃の係活動と合唱コンクールを題材として話合いを実施したが、一連の検証改善サイクルを学校の他の活動や行事等にも関連付けることが大切である。そのため、教員間の情報共有を密にし、各活動や行事を単独の取組として捉えることなく、各活動や行事に関わる資質・能力の育成を横断的に捉え、生徒の指導を組織的、計画的に行うことが大切である。

平成 29 年度　教育研究員名簿

中学校・特別活動

学　校　名	職　名	氏　　名
練馬区立開進第三中学校	教　　諭	◎　吉田　義和
足立区立六月中学校	教　　諭	真辺　草平
東村山市立東村山第二中学校	主任教諭	小野　博史
狛江市立狛江第一中学校	教　　諭	桒原　美絵

◎　世話人

〔担当〕東京都教育庁指導部指導企画課
指導主事　澁谷　哲宏

平成 29 年度

教育研究員研究報告書

中学校・特別活動

東京都教育委員会印刷物登録

平成 29 年度第 142 号

平成 30 年３月

編集・発行　東京都教育庁指導部指導企画課
所　在　地　東京都新宿区西新宿二丁目８番１号
電話番号　（０３）５３２０－６８４９
印刷会社　康印刷株式会社

リサイクル適性Ⓐ
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。